

愛知県の財政状況

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費充当一般財源}}{\text{経常一般財源} + \text{臨財債等発行額}} \times 100$$

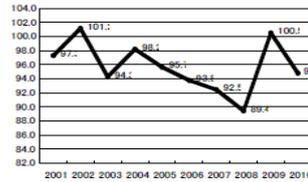
各年度に収入が見込まれる一般財源のうち、どれほどの割合が、人件費、公債費等の経常的支出に充てられているかを示す財政指標



経常収支比率が高いほど財政に余裕がない

2010年度愛知県  
 経常経費充当一般財源 1兆2,711億円  
 経常一般財源 9,580億円  
 臨時財政対策債発行額 3,826億円  
 ⇒ 経常収支比率=94.8%

経常収支比率の:



⇒ 大規模建設事業の実施は、主として、公債費の増加を通じて、経常収支比率を高める

(2) 設楽ダム関連経費と愛知県財政

2. 設楽ダム関連投資と愛知県財政

～ダム関連投資は愛知県の経常収支比率をどれほど高めるのか～

設楽ダム建設関連事業費(2020(平成32)年度までの総事業費)

ダム本体建設事業費	全体:2,070億円	愛知県負担分: 721億円
水源地域対策事業費	全体: 903億円	愛知県負担分: 668億円
合計	全体:2,973億円	愛知県負担分: 1,389億円

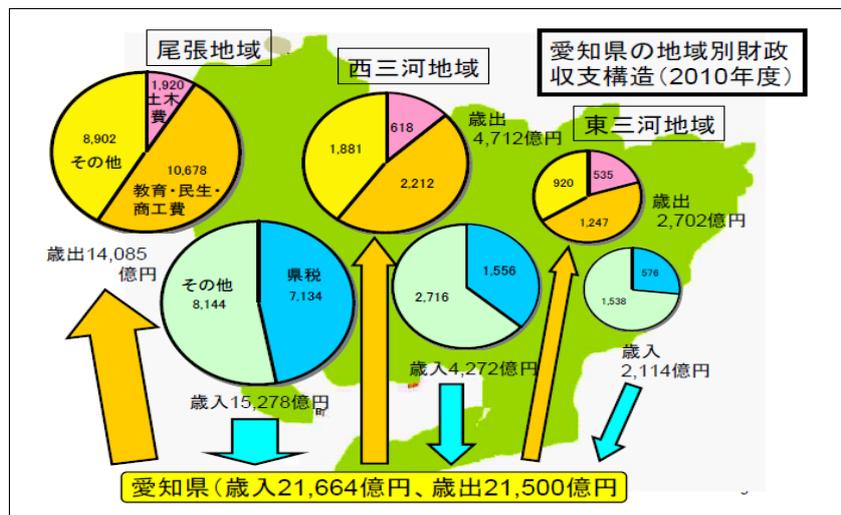
愛知県における各年度の支出額と資金調達に関する想定

既支出分は無視し、10年間にわたり、毎年度均等額(138.9億円)を支出  
 各年度の支出額の90%(125億円)を県債収入で、10%を経常一般財源で調達  
 県債の償還は、1年据置の元金均等返済で、据置期間を含め20年償還、利率2.15%



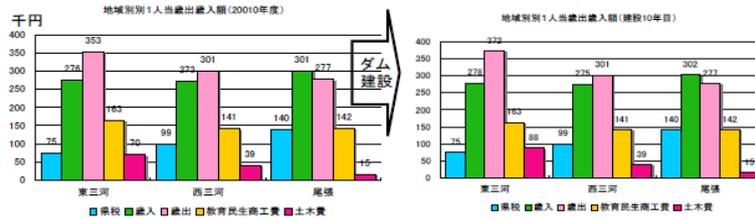
2010年度の経常経費充当一般財源、経常一般財源、臨財債発行額を前提に設楽ダム建設関連事業の実施が愛知県の経常収支比率をどのように変化させるかをシュミレート

○尾張地域からの税収を、西三河・東三河へ配分



愛知県における地域間財政再分配の構造(2010年度)

尾張地域での歳入超過(約1,200億円)を西三河地域(約450億円)および東三河地域(約600億円)に歳出の形で再分配(西三河:主に教育費等、東三河:主に土木費)



設案ダム建設関連投資の実施は、愛知県の地域間財政再分配政策の延長線上に位置づけられる

《伊藤達也氏講演 「ダム投資と事業効果」》

※法政大学文学部教授

(1) 設案ダムの目的

規模		(万m <sup>3</sup> )
貯留量	総貯留量	9,800
	有効貯留量	9,200
	洪水調節	1,900
	流水の正常な機能の維持	6,000
	灌漑	700 (=0.339 m <sup>3</sup> /sec)
	水道	600 (=0.179m <sup>3</sup> /sec)

(2) 設案ダムの費用

2. 設案ダムの費用		(1)建設費用			
	計 (億円)	国	愛知県	利用 権者	備考
河川 (治水)	1,608	1,126	482(87.9)		国7割
水道	228	76	152(6.66)		国1/3
灌漑	234	147	64	23	国9/10×7/10 県9/10×3/10 利用権者1/10
合計	2,070	1,349	698(94.56)	23	